

PETRI



ペトリカメラ株式会社

本社 東京都足立区梅田7-25-12 TEL. 887-1111 〒123
東京営業所 東京都千代田区九段南2-4-16 TEL. 261-9981 〒102
札幌営業所 札幌市中央区北4条東2-8-6 札幌ユニオンハイツ2階 TEL. 221-2008 〒060
仙台営業所 仙台市東7番丁44-1 ち産マンション第3仙台2階 TEL. 93-0221 〒980
横浜営業所 横浜市中区長者町2-5-4 白井ビル3階 TEL. 681-7145 〒232
名古屋営業所 名古屋市中区栄3-11-9 塩屋ビル5階 TEL. 251-5691 〒460
大阪営業所 大阪市西区北堀江上通り1-50 東海ビル3階 TEL. 541-5096 〒550
福岡営業所 福岡市博多区上川端町14-13 TEL. 291-0653 〒812
沖縄センター 沖縄県那覇市松山1-11-11 TEL. 68-6109 〒900

ペトリ
MF-1

使用説明書

お買上げありがとうございます。

このたびはペトリ MF-1 をお買上げいただき有難うございます。

ペトリ MF-1 は、35mm 高級一眼レフとしては最も小型・軽量で、あらゆるテーマに対処できるように、すべての機能を備えたカメラです。

どんな厳しい要求にもお応えできる、万能一眼レフ＝ペトリ MF-1 をお使いになる前に、この説明書をお読みいただき正しい操作で、長くご愛用くださいますようお願い申し上げます。

目次

性能及び仕様	4
各部の名称	5
フィルム感度のセット・裏ふたの開け方	7
フィルムの装てん	8
フィルムカウンター・フィルム巻上げレバー	10
水銀電池の入れ方	11
シャッター速度ダイヤル	12
露出計の測り方	13
カメラの構え方・被写界深度	14
ピントの合わせ方・逆光のときの撮影	15
フィルムの巻戻し・レンズの交換	16
フラッシュ撮影	17
セルフタイマー撮影・赤外線撮影	18
被写界深度表・MF-1 専用交換レンズ	19

標準価格

F1.7 付 (ブラック)	
カメラ	¥45,800
ケース	¥3,000
(ボディ単体 ¥30,000)	
F2.8 付 (ブラック)	
カメラ	¥39,800
ケース	¥3,000

性能及び仕様

型 式：TTLシステムCdS露出計内蔵フォーカルプレーン式35ミリ判一眼レフ

使用フィルム：パトローネ入り35ミリフィルム

画面サイズ：24×36ミリ 35ミリフルサイズ

標準レンズ：ペトリ50ミリF1.7 4群6枚構成
ペトリ45ミリF2.8 3群4枚構成
完全自動絞り

レンズ交換：スクレームマウント方式

ファインダー：固定式ペンタプリズム マイクロプリズム・フレネルレンズ・コンデンサー併用 露出計指針表示

ミラー：クイックリターンミラー

ピント調節：回転ヘリコイド式

露出計：TTL方式CdS連動露出計平均測光方式 ファインダー内指針による定点式 測光範囲EV3～EV18(ASA100) 感度目盛ASA25～1600 DIN15～33

シャッター：布幕フォーカルプレーン 等間隔倍数系列 1軸不回転ダイヤル
B・1～1/1000秒

セルフタイマー内蔵

フィルム装てん：シンプルロード システム

フィルム巻上げ：レバー式1作動巻上げ(130°)セルフコッキング、二重巻上げ、二重露出防止

フィルム巻戻し：クランク式

フィルムカウンター：順算式、自動復元

フラッシュ：X接点(1/60秒)コードレスシンクロ接点 又は、JIS B型プラグ

水銀電池：H-Cタイプ 1.3V

フィルターサイズ：49mm (ねじ込み式)

レンズフードサイズ：51mm (かぶせ式)

寸法・重量：132.9×89.5×50ミリ 450グラム
(ボデー)

各部の名称



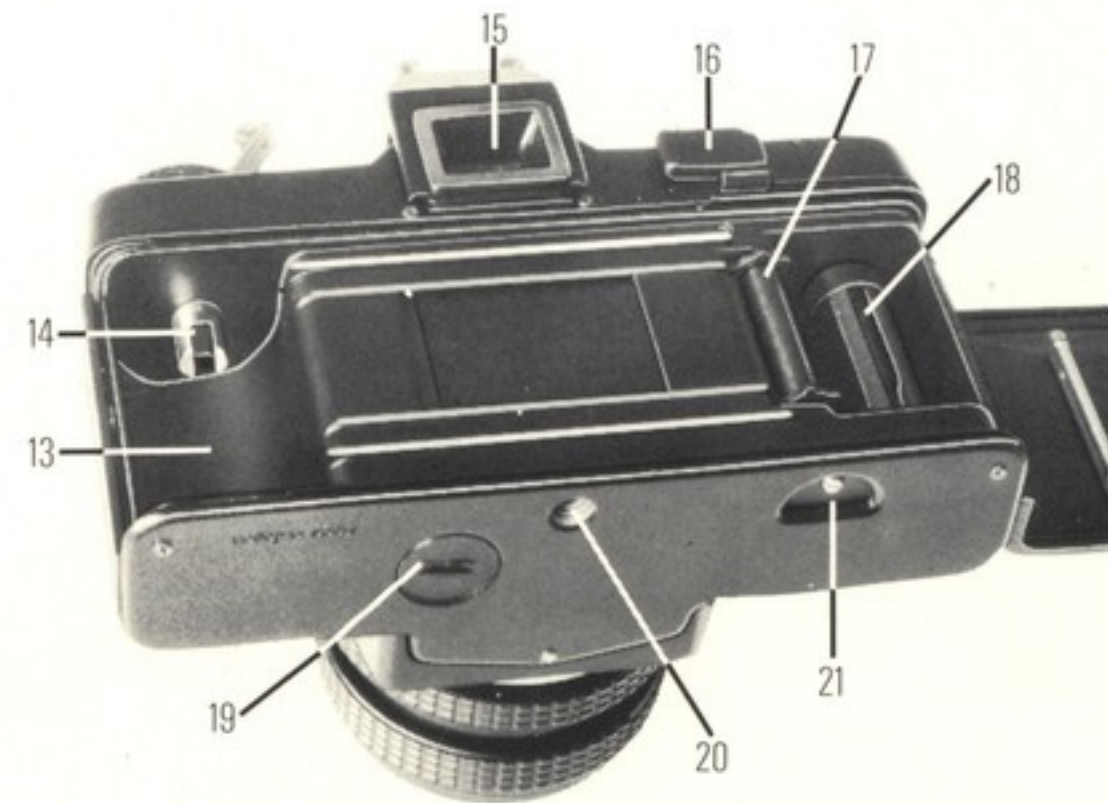
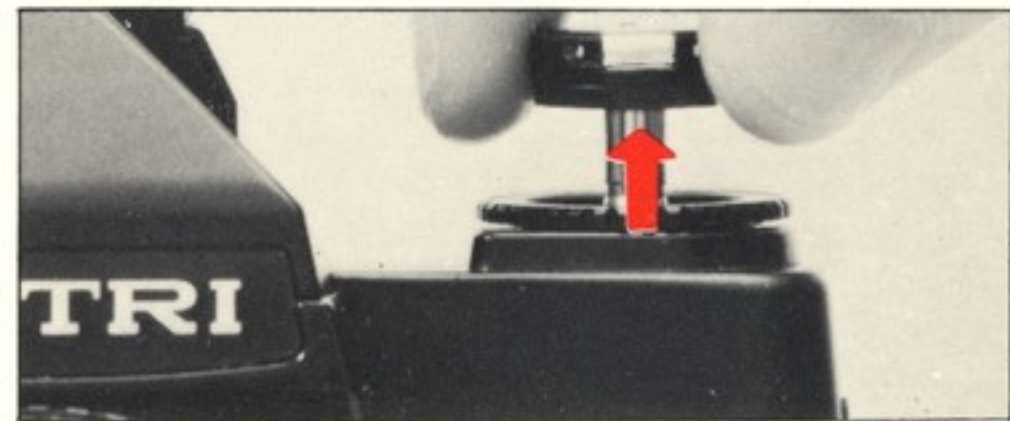
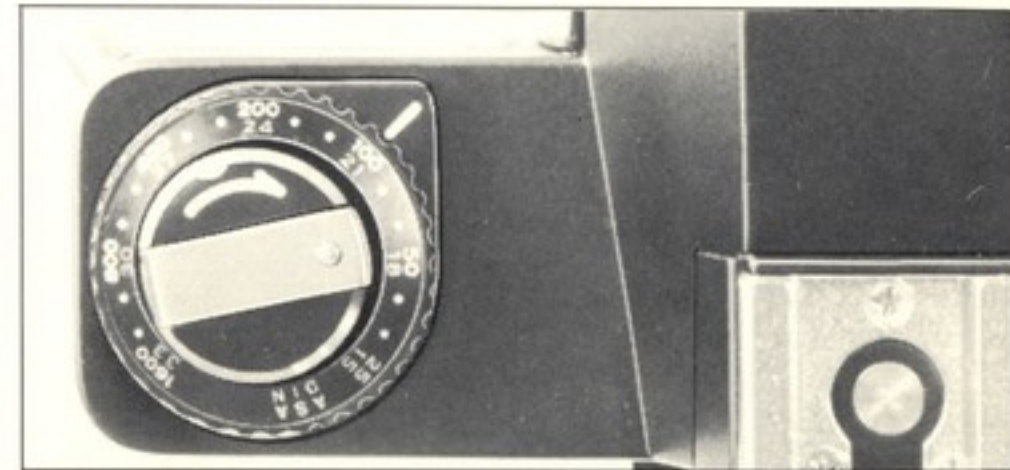
- 1 吊環
- 2 フィルムカウンター
- 3 シャッター速度ダイヤル
- 4 シャッターボタン
- 5 アクセサリーシュー
- 6 フィルム感度ダイヤル
- 7 フィルム巻戻しクランク
- 8 セルフタイマーレバー
- 9 絞り込みボタン
- 10 絞り目盛リング
- 11 焦点深度目盛
- 12 距離目盛リング

フィルム感度のセット・裏ぶたの開け方

ご使用になるフィルムのASA感度と、カメラのフィルム感度ダイヤル⑥の数字を、あらかじめ合わせておきます。このASAが合っていないと、いかに露出計が正しく作動しても、適正露出は得られません。フィルム感度ダイヤル⑥を右、または左に回し、白線（又は黒線）に使用フィルムのASA感度の数字を合わせます。

ASAは国産及びアメリカ系のフィルム感度規格、内側の赤で刻まれたDIN数字は、ドイツ系の感度規格です。

フィルム巻戻しクランク（7）をつまんで上部に引き上げますと、裏ぶたは簡単に開きます。閉じるときは、裏ぶたを押すとパチンと音がして閉じます。



- 13 フィilm室
- 14 フィilm巻戻しクランク軸
- 15 ファインダー接眼部
- 16 フィilm巻上げレバー
- 17 スプロケット
- 18 フィilm巻取り軸
- 19 水銀電池格納室
- 20 三脚穴
- 21 フィilm巻戻しボタン

ASA	25	●	●	50	●	●	100	●	●	200	●	●	400	●	●	800	●	●	1600
		32	40		64	80		125	160		250	320		500	650		1000	1250	
DIN	15	●	●	18	●	●	21	●	●	24	●	●	27	●	●	30	●	●	33
		16	17		19	20		22	23		25	26		28	29		31	32	

フィルムの装てん

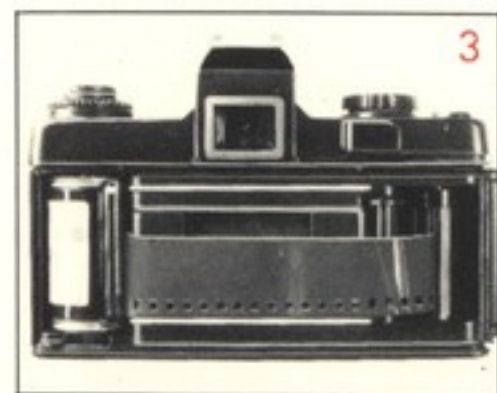
1. 巻戻しクラックを引きますと裏ふたが開きます。



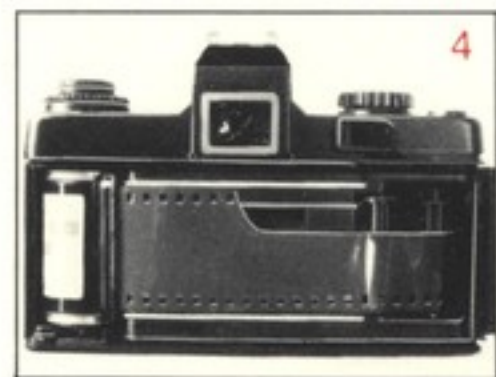
2. フィルムをフィルム室に入れ、巻戻しクラックを元の位置に戻します。戻らないときは左右に少し回しながら押込むと完全に入ります。



3. 左手で軽くパトローネをおさえながら、フィルムの先端を巻取り軸に刻まれた溝のどれにでも差込み、いちばん狭い部分の根元まで引きこみます。



4. 巻上げレバーでフィルムを巻上げ、パーフォレーション（フィルムに刻まれた穴）が両側とも、スプロケットの歯車にしっかり噛み合うようにします。



5. 裏ふたを閉じ、念のための巻戻しクラックを起し、クラックが重く感じるまで矢印の方向に軽く回して、フィルムのタルミをとります。



6. 巻上げレバーを巻き上げ、フィルムカウンターが1の手前の白い点を指すまでくり返してください。

この空写しの途中、巻戻しクラックが巻上げにつれて矢印の逆方向に回っていれば、フィルムは正しく送られています。



※フィルム装てんは、直射日光を避けてください。9

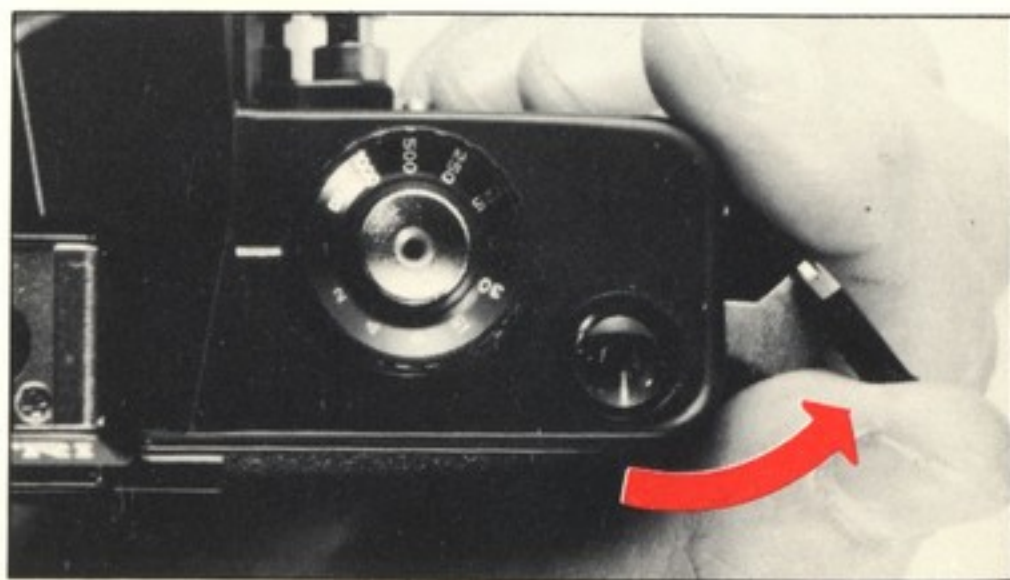
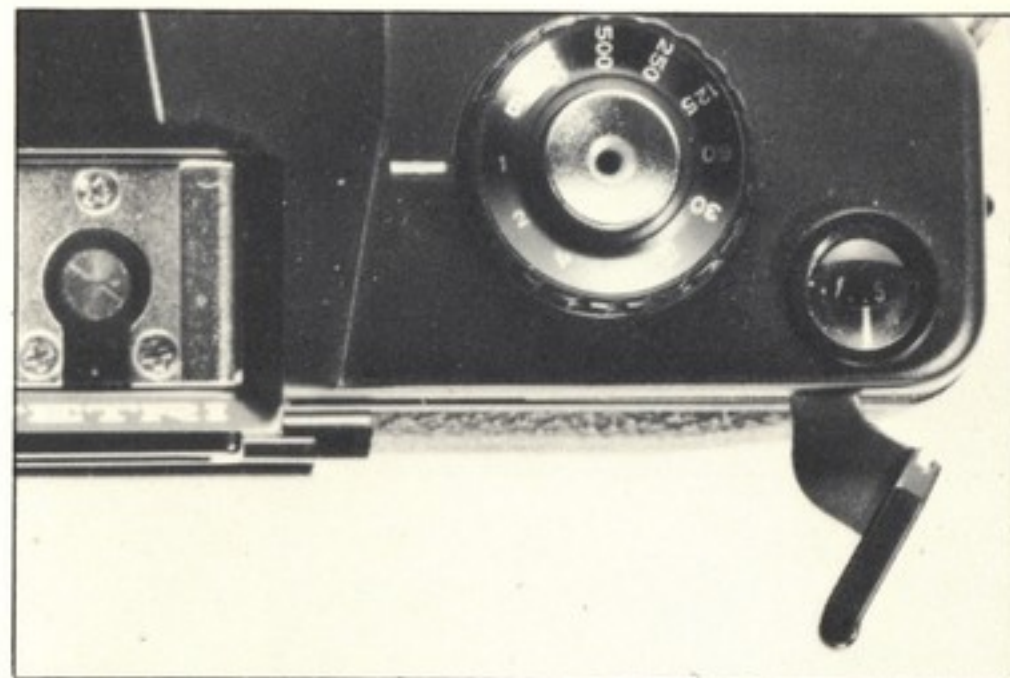
フィルム巻上げレバー・フィルムカウンター

フィルムがセットできたら、シャッターを切り、もう一度巻上げレバーを回し、シャッターを切って下さい。

フィルム巻上げレバーは、親指を掛け、止まるまで回します。一回巻上げると

- ①フィルムが1コマ送られ
- ②シャッターがセットされ
- ③ミラーが作動開始状態になり
- ④自動絞り機構が準備され
- ⑤二重巻上げや二重露出が防止されるなど多くの働きをします。

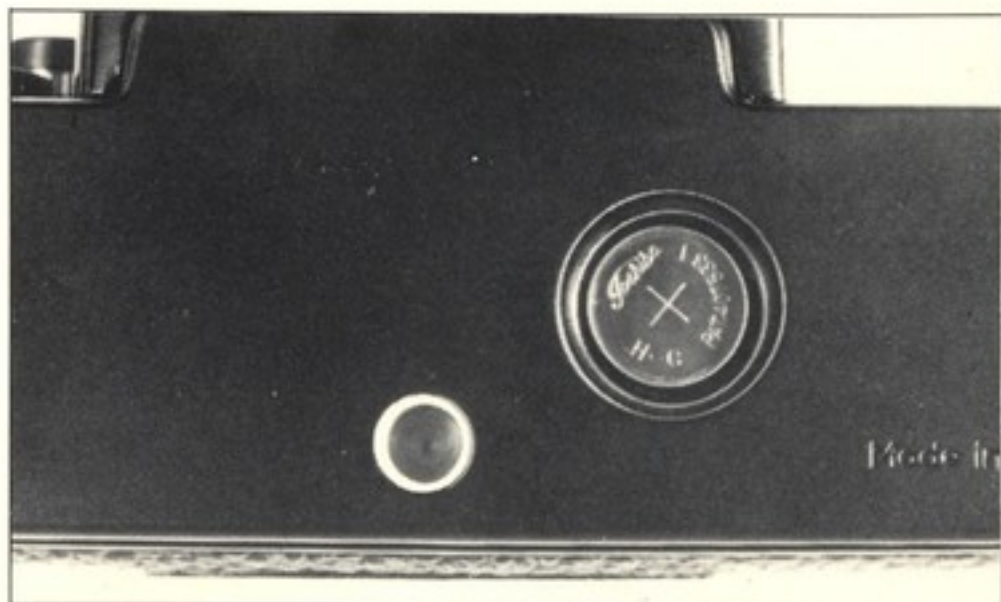
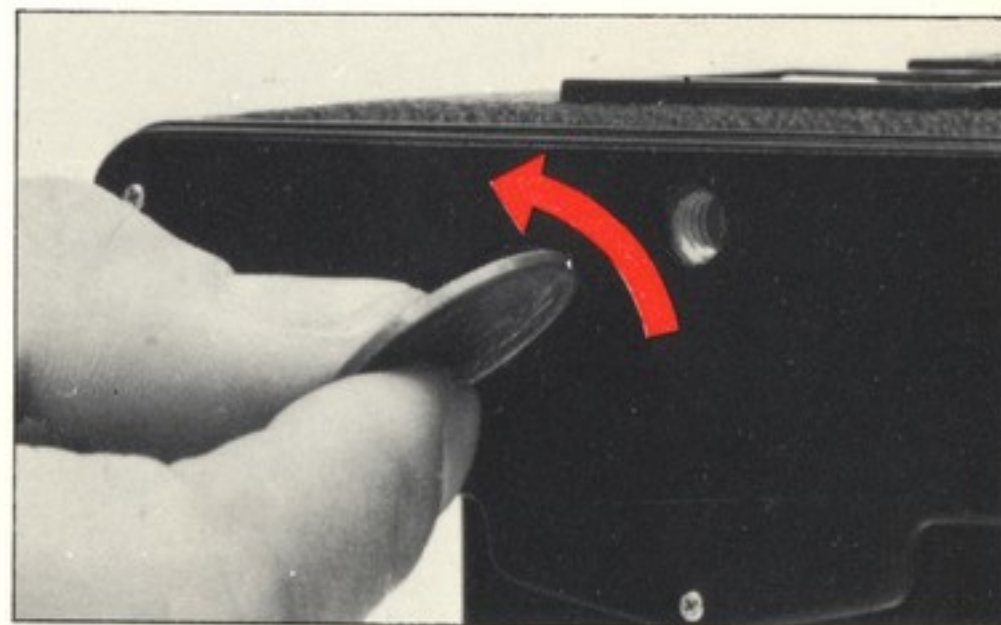
フィルムカウンターは、S(スタート)、1、4、6、8と2枚毎に数字が刻まれておりますが、巻上げレバーを巻上げると1コマずつ進みます。オレンジ色の指標の先の数字が撮影枚数で12、20と36はオレンジ色で刻まれておりますが、これは12枚撮り、20枚撮り、36枚撮りフィルムのそれぞれの撮影終了時を告げております。裏ふたを開けると、フィルムカウンターは、自動的にスタート(S)に戻ります。



水銀電池の入れ方

まず、水銀電池(H-Cタイプ1.3V)を水銀電池格納室⑱に入れます。これは内蔵されているTTL方式CdS連動露出計を作動させる電源となります。

1. 水銀電池格納室のふたは10円硬貨などで左に回して開けて下さい。
2. 水銀電池は、ふたの裏側に印されているように⊕文字が外側になるように入れ、ふたを元のようにはっきりねじ込んで下さい。
3. 水銀電池のスイッチは絞り込みボタン⑨を押込むとスイッチ・オンされ離すとスイッチは自動的に切れます。絞り込みボタンを押込んで左に回転させますとロックされますが、この状態での測光も可能です。絞りを優先した測光をする時に利用すると便利です。
4. 水銀電池は、寿命が切れると、性能が一時に落ち露出計は働かなくなりますので、すぐわかります。1年位使用したら、なるべく交換するようにしてください。
5. 水銀電池の交換には、H-Cタイプ1.3V(ナショナルM-IC、東芝H-Cなど)をお使いください。



シャッター速度ダイヤル

シャッター速度ダイヤル上の数字を白線(又は黒線)に合わせてセットします。1は1秒、2は1/2秒、1000は1/1000秒の意味です。Bはバルブ露出のことで、レリーズボタンを押しているあいだ中シャッターが開き、放すと閉じます。

注1. シャッター目盛はクリックストップになっており、中間速度は使えません。

注2. シャッター速度のセットは、フィルム巻上げの前後いずれでも行なえます。

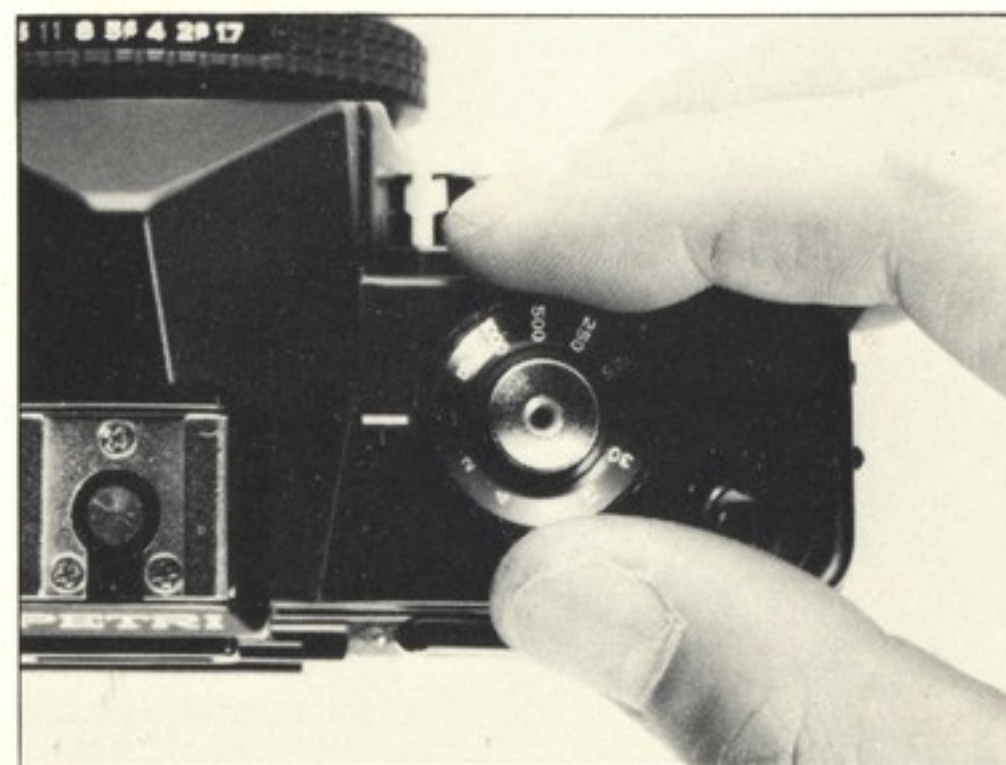
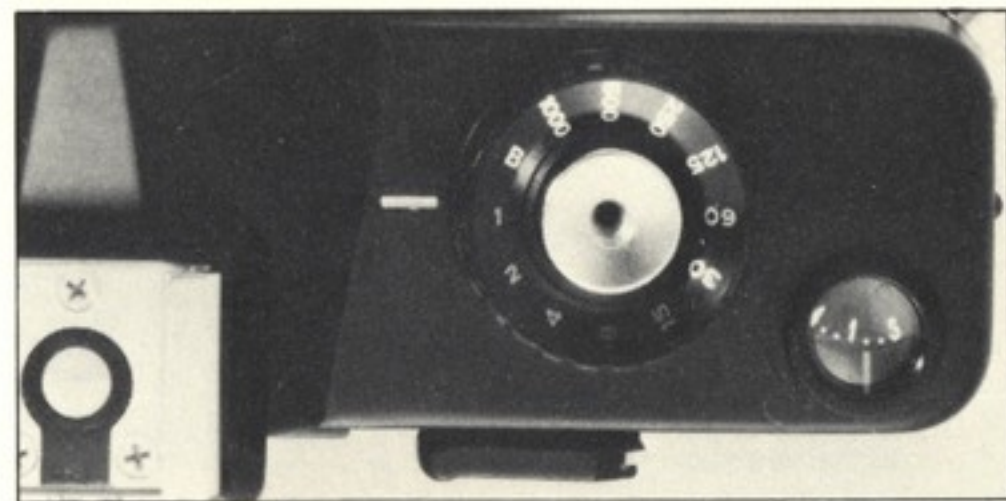
シャッタースピードのセットに際しては次のことを参考にして下さい。

戸外での撮影 1/125又は1/250秒

動きのあるもの 1/250~1/1000秒

屋内での撮影 1/30又は1/60秒

1/30秒よりおそくセットをする場合はカメラが動かないように三脚を使用するか固定させて、ケーブルレリーズを使用して下さい。



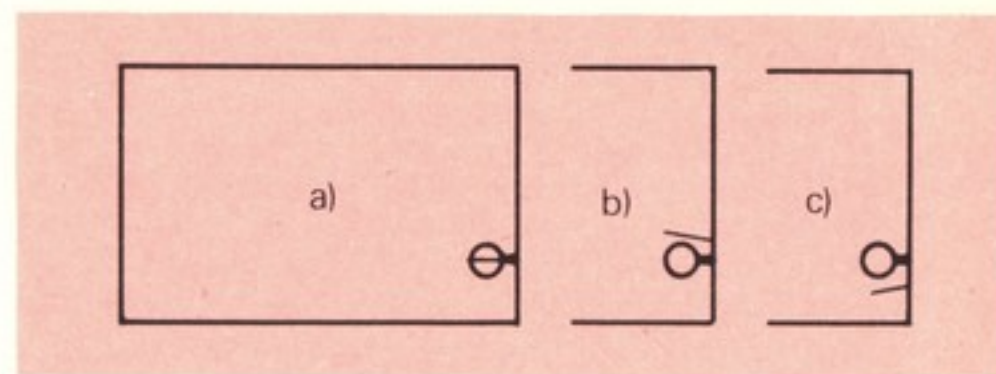
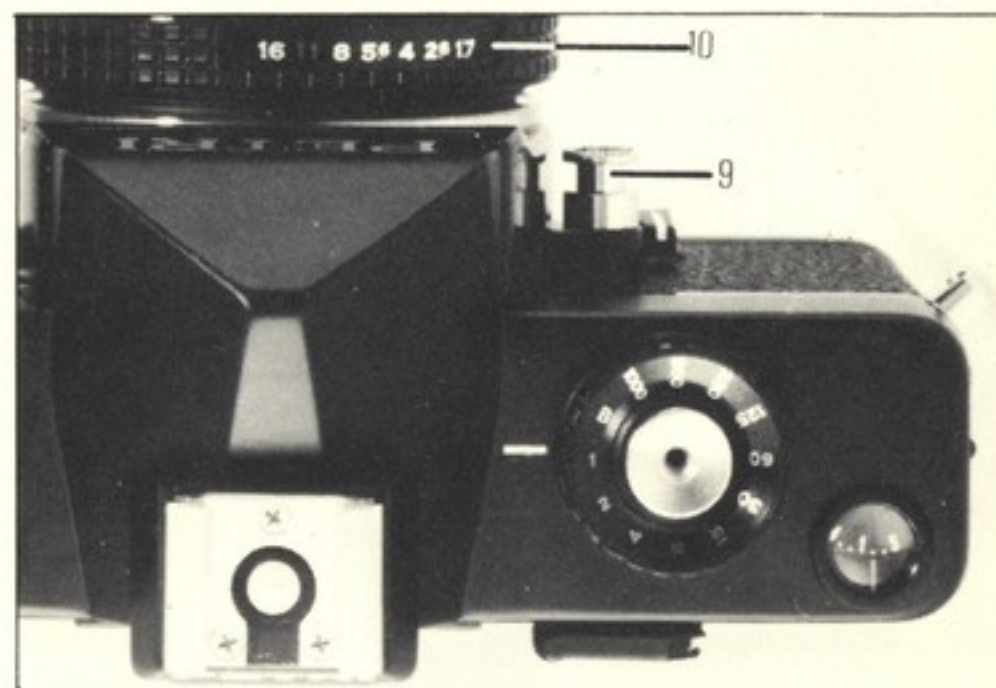
露出計の測り方

本機のTTL露出計は、ASA、シャッタースピード、絞りの3点に完全に連動しますので、シャッターからも絞りからも自由に露出が合わせられます。

1. あらかじめ使用フィルムのASA感度に合わせてフィルム感度ダイヤル(6)をセットして下さい。
2. シャッター速度を決めます。室内や暗い被写体は1/30か1/60秒、屋外や明るい被写体は1/125か1/250秒などが適当でしょう。
3. 絞り込みボタン⑨を押しながら
4. 絞り目盛の刻んである絞り目盛りリング⑩を回し、ファインダー内のメーター針を指標と合致させると適正露出が得られます。

注1. 絞りを先に決め、シャッターダイヤルで露出を調節することもできますが、シャッター速度が目盛の中間で適正となったときは、近い方の速度を選び、絞りで誤差を調整してください。この場合は、絞り込みボタンをロックして操作して下さい。(水銀電池の入れ方11頁を参照)

注2. あらかじめセットしたシャッター速度で露出を求めても、適正值が得られないときは、その速度が不適当ですのでセットをし直して下さい。



注3. 上図a)適正露出か露出計の作動していない状態
b)露出過剰の状態
c)露出不足の状態

カメラの構え方・被写界深度

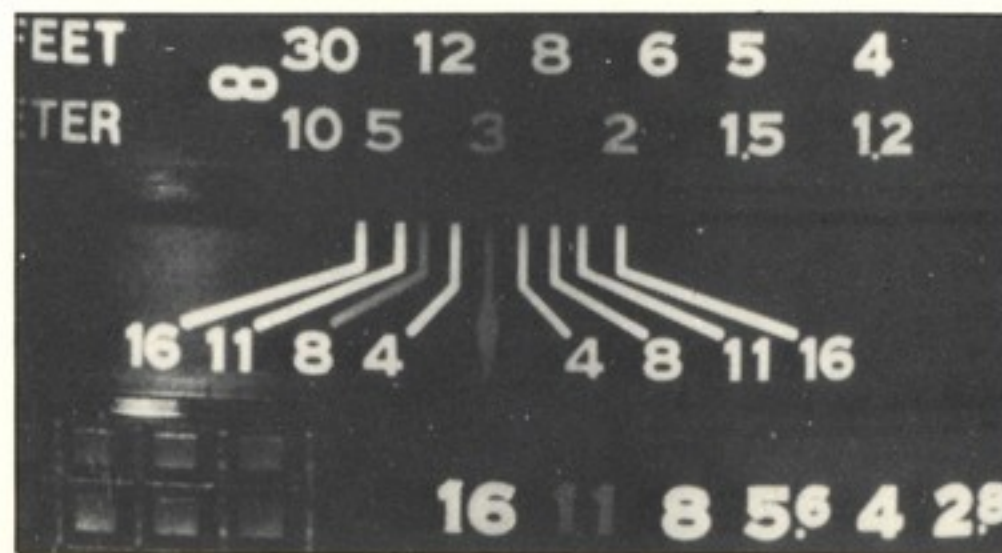
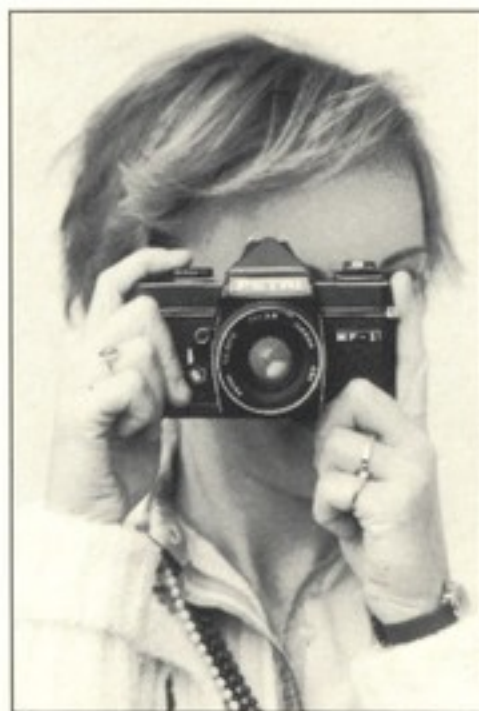
ピントの悪い写真の大半はカメラブレです。美しい写真を撮るには、カメラをしっかり構え、ブレないようにしなければなりません。カメラの保持は、横位置でもタテ位置の場合でも、カメラの背面をヒタイや顔の一部に当てるようにすればカメラブレが防げます。シャッターボタン④を押すときは、一瞬息を止めるようにし、指の腹でボディを押えるように、静かに切ります。

注1. 横位置にカメラを構えるときは、両ヒジを身体にしっかりつけます。

注2. タテ位置の場合は、右ヒジを身体につけ、左手でカメラを動かないように保持します。

レンズ鏡胴部の赤い距離指標♦の左右対称に、F1.7レンズの場合、4、8、11、16の数字(Fナンバー)と線が刻まれています。これはピントの合う範囲を示した深度目盛でスナップ撮影などに利用すると便利です。例えば距離を3メートルに合わせ、16に絞ると、1.9メートルから6.8メートル位までピントが合い、いちいち距離を合わせなくても写せます。

(P. 19被写界深度表を参照)

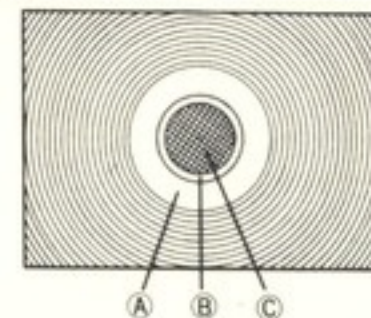
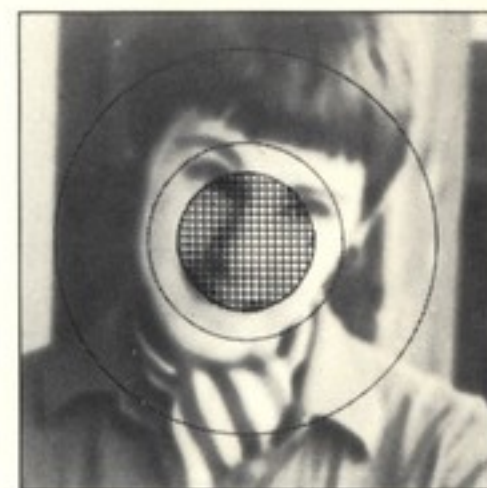


ピントの合わせ方・逆光のときの撮影

ファインダーをのぞきながら、距離目盛リングを右または左に回すと、被写体がはっきりしてきます。特に中央のマクロイメージ◎がシャープな像を結んだところでシャッターを切れば、ピントの合った写真が写せます。本機のファインダーは、中央のマクロイメージ◎、ピント合わせのお手本となる透明部③、被写界深度確認部①からなっており、更にその外側はフレネルレンズで面画の隅々まで明るく見られます。

被写体までの距離を知りたいときは赤い距離指標と合致した数字を読みとります。オレンジ色の数字がメートル表示、白色数字がフィート目盛です。

被写体の後に光源があるとき、又は被写体そのものが光源であるときは、露出を補正して下さい。絞りを1/2~1目盛開くことにより適正露出となります。



フィルムの巻戻し・レンズの交換

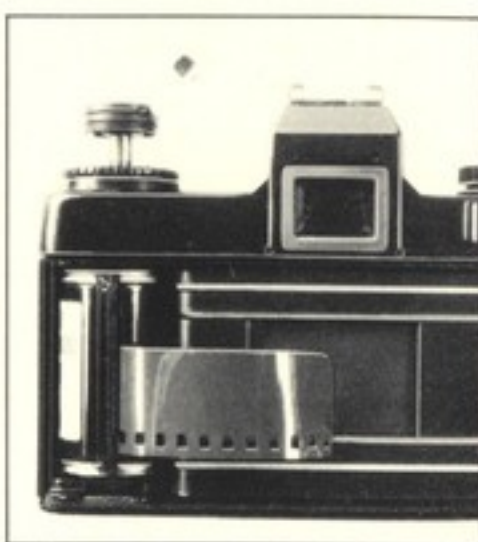
撮影が終わったら、フィルムを巻戻します。20枚撮りフィルムの場合はフィルム枚数計が20、36枚撮りの場合は36を指すか、又は巻上げレバーが作動しなくなったときは撮影枚数の終わったことを示します。巻戻しは、カメラ底部のフィルム巻戻しボタン②1を押し、フィルム巻戻しクランクレバーを起し、矢印の方向に回します。フィルムを巻戻している間は、クランクが重く感じますが、フィルムが巻取られ、巻取り軸からフィルムの先端が外れると急に軽くなり、巻戻されたことが確認できます。

注1. 巻戻したフィルムは直射日光を避けて取出して下さい。

注2. 撮影済みのフィルムは、放置しておくとも結果はよくありませんので、早目に現像してください。

一眼レフは、性質の異なるいろいろな交換レンズを駆使することによって、はじめて本来の機能を発揮します。本機は、スクリューマウント方式です。レンズを取りはずすときは、カメラのボデーを左手に持ち、右手にレンズを持って、時計とは反対方向に廻してください。レンズをセットするときは、時計

16 方向に止まるまで廻して下さい。



フラッシュ撮影

夜間や室内で明るくきれいに写すには、フラッシュ撮影が必要です。

本機にはコードレス接点が付いていますので、コードレスタイプのストロボやフラッシュガンをお使いください。

又、コード付の発光器を使用する場合は、アクセサリシュー⑤を上にスライドさせるとはずれ、シンクローミナルが現れますので、これにコードを接続して下さい。

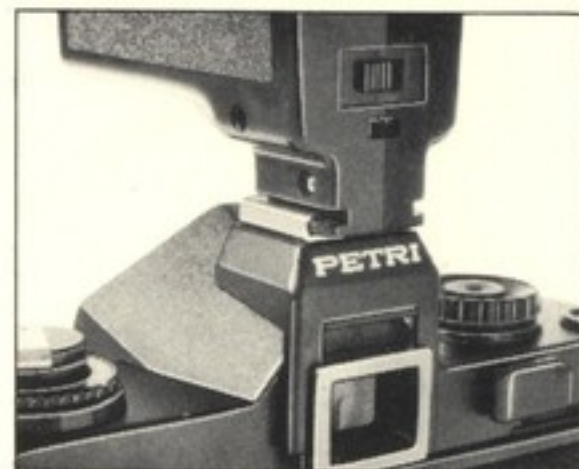
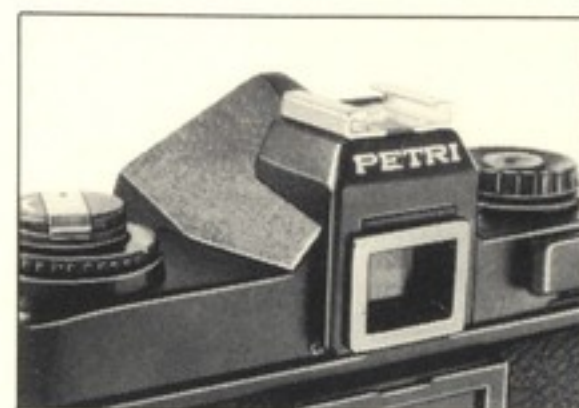
フラッシュ撮影のときには、光源と被写体の距離によって露出が変わりますので、それぞれのフラッシュに添付してあるガイドナンバー表によって、絞りを決めて下さい。

シャッタースピードの同調する範囲

F 級 1～1/30秒

ストロボ 1～1/60秒

※但し、通常のフラッシュ撮影ではF級で $\frac{1}{60}$ 秒、ストロボでは $\frac{1}{60}$ 秒のシャッタースピードを使用することをお奨めします。



セルフタイマー撮影・赤外線撮影

セルフタイマーによる撮影をするときは、セルフタイマーレバーを90度押しさげ、レリーズボタンを押すと、約9秒後にシャッターが切れます。

注1. セルフタイマーレバーをセットするときは完全に止まるまで押しさげて下さい。この押し下げの角度が少くすると短い時間でシャッターが切れます。

注2. フィルムは必ず巻上げて下さい。巻上げられていないと、シャッターは作動しません。

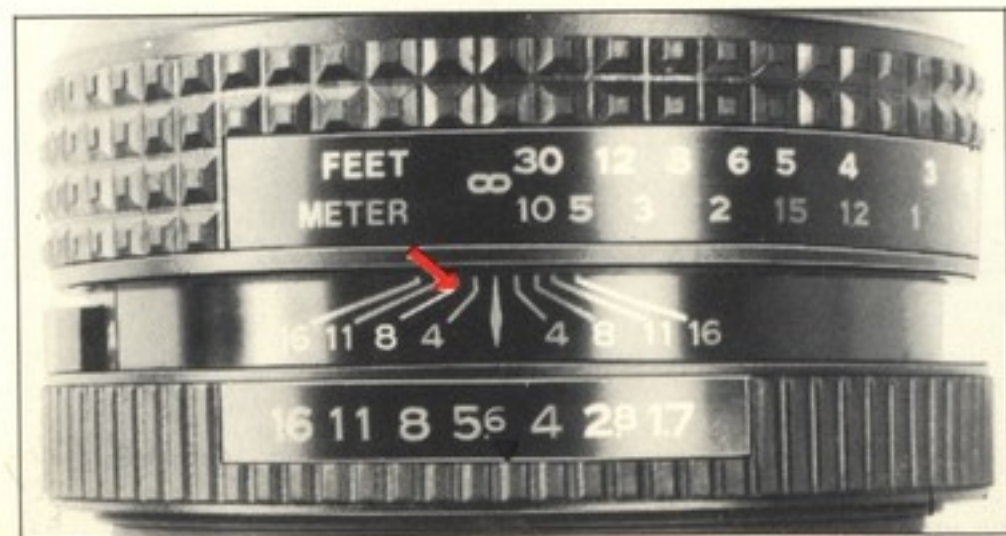
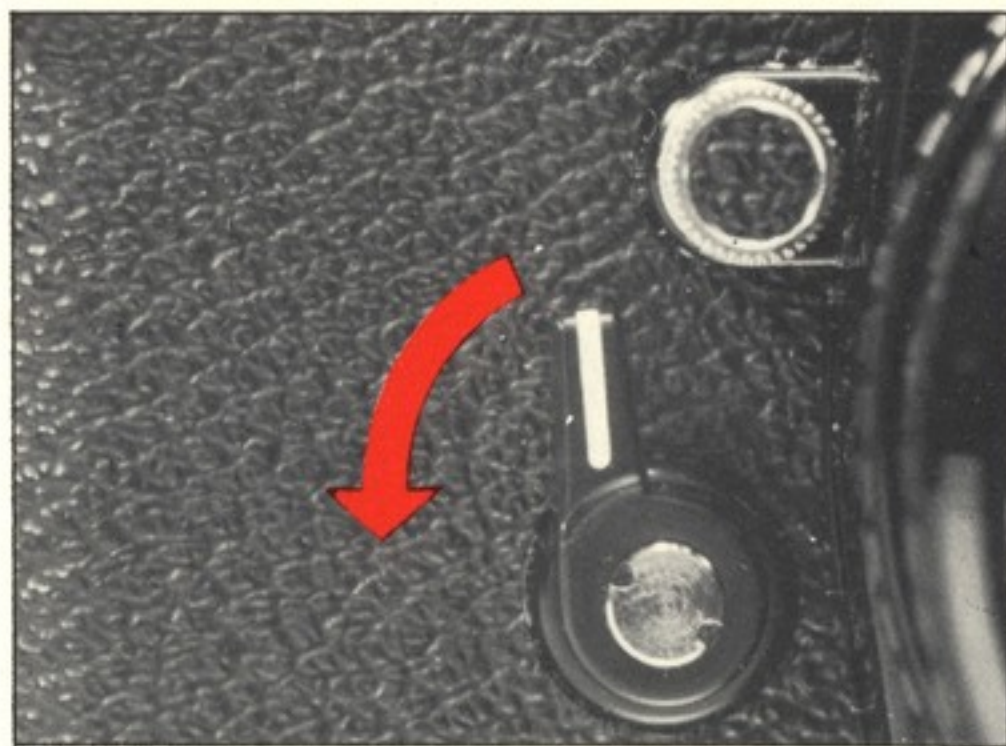
セルフタイマーのセットは、フィルム巻上げの前後いずれでも構いません。

注3. シャッター速度は、B以外の全速度が使用できます。

注4. セルフタイマー撮影のときは三脚をお使い下さい。

赤い距離指標 ◆ の横の赤線（被写界深度目盛で8の線）は赤外線指標です。

赤外線フィルムを使用するときは、一度ピントを合わせ、その距離目盛を赤外線指標までずらして撮影してください。なお、赤外線フィルムの撮影には、赤フィルターをご使用ください。



被写界深度表・MF-1 専用交換レンズ

被写界深度 (Meter)

Meter \ Fno	1.7	2.8	4	5.6	8	11	16
∞	47.12	29.2	20.6	14.6	10.34	7.33	5.20
10	8.27	7.48	6.77	5.97	5.12	4.27	3.45
5	4.53	4.29	4.05	3.75	3.40	3.01	2.59
3	2.83	2.73	2.64	2.51	2.35	2.16	1.94
2	1.92	1.88	1.84	1.78	1.70	1.60	1.47
1.5	1.46	1.43	1.41	1.37	1.33	1.27	1.19
1.2	1.17	1.16	1.14	1.12	1.09	1.05	0.99
1.0	0.98	0.97	0.96	0.95	0.92	0.90	0.86
0.8	0.79	0.78	0.78	0.77	0.75	0.73	0.71
0.7	0.69	0.69	0.68	0.67	0.66	0.65	0.63
0.6	0.59	0.59	0.59	0.58	0.58	0.57	0.55

28mm f 2.8
¥25,000(ケース付)

135mm f 2.8
¥22,000(ケース付)
フード

200mm f 3.5
¥27,000(ケース付)
フード

400mm f 6.3
¥35,000(ケース付)
フード

85~210mm f 4.5 ズーム
¥43,000(ケース付)